

自主防災組織と地元企業との連携協定の締結にあたって

2～3年前から県庁の主要な会議の中で、タイトルにあるテーマが浮上してきました。「地域防災力強化策」の一貫として、地域企業のエネルギーを連携力の源として活用してはどうかという意見が多くの有識者委員の中から発信があり、地域防災活動の強化に企業との連携が欠かせない要素になりつつあるという感じを持ちました。具体的には去年の夏から取組みを始めました。

平素お付き合いの無い企業の皆さんとの交渉は誰しも得意ではありませんが、約半年間位で顔なじみになろうと計画的に地域活動を行なうことが大切です。

私が行なってきた事を紹介します。

<まずターゲット企業を10社位に絞り込み>

- ① 毎月発行されている「コミュニティだより」をポストに入れるのはダメ
事務所に伺い事務所に聞こえる何時もより大きな声でご挨拶し名刺と共に資料をお渡しする
- ② 日赤募金、赤い羽根共同募金、ターゲットとしている企業には率先して募金活動の中で繋がりを持つこととします。
- ③ ターゲット10社の中でコミュニティセンターとの商談パートナーであるか調査して無理のない程度で商談窓口を広げて対応することも大切です。更に地域の中での排水問題、ゴミ問題、騒音問題等でも率先して調停役を担うとか前向きの姿勢を企業の皆様に認知していただくことも肝要です。
- ④ とにかく自主防災会の名刺を会長だけでなく、地域の仲間にも多く用意して訪問活動時にはしっかり使って下さい。

小生、現役時代営業に遅れをとり先行企業から大きく引き離され勝ち目のない状況でありました。イチかバチか50日間毎日(週末は除く)名刺持参しての営業活動を展開しました。担当者、主任、係長、副課長、課長へと丁寧なごあいさつと両手でそえての名刺渡し、最後に逆転満塁ホームランとなりました。

- ⑤ 常に目標をしっかりと見据えて気持ちを切らさず活動を展開することが大切です。

かがわ自主ぼう連絡協議会
会長 岩崎 正朔

事務局だより

令和7年 5月

同志「友國 和俊」氏 逝く

2018年7月に発生した西日本豪雨、丸亀市の対岸、倉敷市真備町に甚大な被害をもたらした。

誰に言われることも無く、瀬戸内海をはさんでいるものの「となり町」が大変な事になっているとただちに防災の仲間達に呼びかけを行なった。県内で一番遠い所(丸亀から)で活動している友國さん、7月14日～16日、更に8月7日～8日にかけていただき、岡山県真備町の被災者の皆さんは香川県に足をむけて寝られないと涙を流しながらお礼を言われた。その活動の真ん中で頑張った「友國 和俊」さんが、今月(5月)4日に静かに旅立ちました。

長い間、かがわ自主ぼうを支えていただきありがとうございました。

ご冥福をお祈りします。 合掌

岩崎 正朔

